

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-139	20-020	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Assessment of Alcohol Consumption and Anxiety as Predictors of Risk of Anorexia and Bulimia in Non-Clinicals Samples 非臨床サンプルにおける拒食症と過食症のリスクの予測因子としての飲酒と不安感の評価		
執筆者		
Pineda-García G, Ochoa-Ruiz E, Gómez-Peresmitré G, Platas-Acevedo S.		
掲載誌		
Int J Environ Res Public Health. 2020 Aug 29;17(17):6293. doi: 10.3390/ijerph17176293.		
キーワード		PMID
拒食症リスク、過食症リスク、飲酒、不安、ドラッグオレキシア		32872410
要 旨		
<p>目的： メキシコにおける過量飲酒と摂食障害との関連を支持する報告はほとんどない。本研究では、バハ・カリフォルニア州ティファナの大学生を対象に、飲酒、不安感、飲酒前後の食事制限、身体像が拒食症と過食症のリスクに及ぼす影響を予測統計モデルで評価することを目的とした。</p> <p>方法： 対象は非確率的サンプリングによって集めたメキシコのバハ・カリフォルニア州ティファナの大学生 526 人で、定量的、記述的、横断的分析を行った。拒食症と過食症のリスクを評価するため、the Scale of Risk Factors Associated with Eating Disorders (EFRATA) を用いた。飲酒量は the Alcohol Dependency Scale (BEDA) で評価した。飲酒前後のカロリー制限について 2 つのリッカート尺度を作成し、評価した。不安感は 1993 年に Beck と Steer によって開発された方法で評価した。身体像は、Kearney、Kearny および Gibney が開発した手法で評価した。また、パス解析では、共通の変数（身体像変化、身体像への不満足、不安感、アルコール依存、飲酒前の食事制限、飲酒後の食事制限）を用いて、拒食症と過食症リスクを予測するモデルを男女別に作成した。</p> <p>結果： パス解析の結果、十分な適合度示す 4 つのモデルが特定された。(1) 女性の拒食症リスク [カイ二乗値 (X^2) = 5.34、$p=0.376$、調整済決定係数 (R^2) = 0.250]、(2) 男性の拒食症リスク [X^2 = 13.067、$p=0.192$、R^2 = 0.058]、(3) 女性の過食症リスク [X^2 = 3.358、$p=0.645$、R^2 = 0.202]、(4) 男性の過食症リスク [X^2 = 14.256、$p=0.075$、R^2 = 0.284]。飲酒前の食事制限と不安感は 4 つのアウトカムに対して最大の影響因子であった。また、不安感と身体像への不満足は、女性の拒食症リスクを除いて、拒食症と過食症へ直接影響を及ぼす変数であった。</p> <p>結論： この知見は、食事とアルコール使用障害モデルに対して経験的なエビデンスを提供した。</p>		